

2007年 8月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所だより～



○ドイツのスポーツ少年団員が三河港を見学



8月1日、日独スポーツ少年団同時交流事業で来日中のドイツのスポーツ少年団一行10名が、当事務所の監督測量船「しおさい」に乗船して三河港を見学しました。この一行は7月29日から8月2日までの間、豊橋市内にホームステイをしながら様々な交流事業に参加してきましたが、この日は豊橋市の産業拠点である三河港を海から見学しました。船内での説明には真剣に聞き入り、メモまで取っていた一行ですが、見学終了後の記念撮影では、



日の丸をバックに記念撮影

日の丸をバックにおどけた表情で撮影に応じるなど普通の少年・少女の姿に戻っていました。

○「夏休み水の教室」で小学生が三河港を見学

8月1日に豊橋市上下水道局主催の「夏休み水の教室」が開催され、市内の小学生21名が三河港を見学しました。同行事は、「水の大切さ・水質浄化・三河湾浄化」の啓発のため毎年夏休みに開催されているもので、当事務所もこの趣旨に賛同し港内見学に協力しています。



職員の説明を受ける小学生



港内見学終了後、記念撮影

この日は朝から市内の浄水場、排水池、水処理場を見学し、午後から当所監督測量船「しおさい」に乗船して三河港を見学しました。船内では三河湾の水質の現状や当所の水質浄化に向けた事業の取組み等について職員から説明を受けました。

Mini-WANとは

三河港湾事務所従来から発行している季節広報誌「m-wan(エムワン)」では扱うことが難しかった新鮮な話題を中心に情報提供を行い、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 工事安全パトロールの実施
- 「みなとの賑わい創出担い手育成支援事業」選定通知授与
- 豊橋みなとフェスティバル
- 衣浦みなとまつり花火大会
- スナメリ観察会
- 衣浦港事業計画及び関連事業説明会開催
- ドイツのスポーツ少年団員が三河港を見学
- 「夏休み水の教室」で小学生が三河港を見学
- シリーズ～海と環境③～ 三河湾の再生



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

先月号でアメリカンフットボールをしていたことを書いたところ、大変嬉しいことに、多くの方が関心を示して頂きましたので引き続き紹介したいと思います。

よく、ラグビーとの違いが分からない、という話を聞きます。確かに、楕円形のボール、相手陣深くまで攻め入れれば得点(アメフトではタッチダウンと言います)、タックルで相手の前進を止める、と共通点は多いです。

大きな違いは、ラグビーはボールを後ろに回すことしかできませんが、アメフトは前へのパスが認められていることです。長いパスのキャッチは最もスリリングなシーンの1つです。

また、アメフトでは、2チームがそれぞれ、ボールを確保する攻撃側(オフェンス)と守備側(ディフェンス)に分かれ、攻守を交代しながらゲームが進行します。この点は野球と似ています(野球もアメフトもアメリカ生まれ)。野球では3アウトで攻守交代ですが、アメフトは4回攻撃して10ヤード(約9メートル)進まなければ攻守交代です。逆に4回攻撃するうちに10ヤード進めば、その時点で新たに4回攻撃する権利を得ます。

9月上旬から本場アメリカのプロリーグ(NFL)が始まります。野球のメジャーリーグでは多くの日本人が活躍していますが、NFL入りを果たした日本人はいません。かつて横綱若花田が挑戦しましたが、惜しい結果に終わりました。現在、木下典明選手がアトランタ・ファルコンズというチームのキャンプに参加しています。日本人初のNFLプレイヤーの誕生を期待したいと思います。

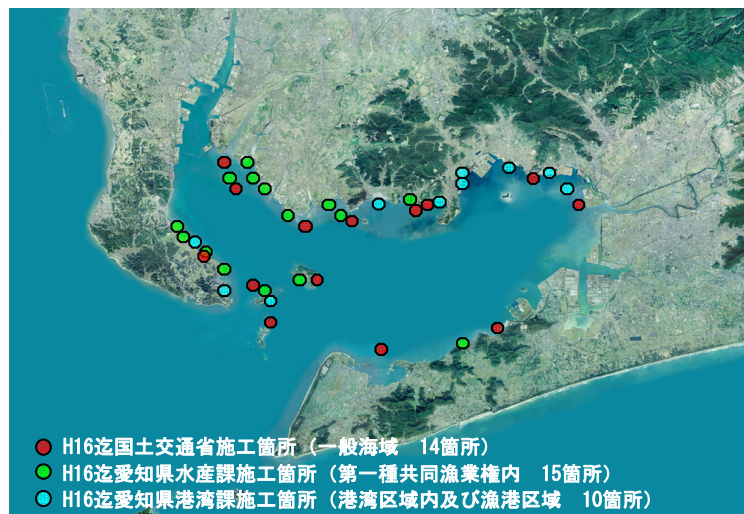


★シリーズ★ ～海と環境③～ 三河湾の再生

三河湾は湾口部が狭い閉鎖的な内湾であり、外洋との海水交換が悪く、環境汚染に対して大変弱い性質を持っています。また、干潟、浅場の減少による自然の浄化能力の低下も環境汚染の要因となっています。

このことから、三河湾の環境を改善するために平成10年よりシーブルー事業を実施してきました。この事業は、浚渫工事で発生した良質な砂を環境悪化に伴い堆積したヘドロの上に覆砂することにより、環境の改善をはかる事業です。覆砂によって汚染物質の海中への溶出を抑制し、水質改善が図れます。また、良質な砂によって、干潟や浅場を造成することで、貝類等の生物の回復による海水浄化機能の向上も期待できます。

次回からは、シーブルー事業による環境改善効果を紹介していきます。



「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局
三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

○ 工事安全パトロールの実施

7月1日から7月7日は全国安全週間となっています。当事務所では、7月3日、三河港防波堤（北）本体工事を対象に工事安全パトロールを実施しました。



現場をパトロール

安全パトロールは、発注者側7名、請負者側11名の計18名が参加し、ケーソンを製作している現場の安全対策や熱中症対策が適正に行なわれているかを中心にチェックし、不適切な点の指摘や安全に関する意見交換を行ないました。この後、武井港湾空港整備・補償課長から「安全面での大きな不適切事項もなく、現場も整理・整頓がなされている。」との講評を頂き、併せて、最近の中部地方整備局管内での事故発生状況、事故事例や工事の安全の重要性について説明を受けました。

暑い日が続く厳しい環境ですが、引き続き、無事故・無災害を目指して工事を進めて参ります。



意見交換

○ 「みなとの賑わい創出担い手育成支援事業」 選定通知授与

7月10日、当事務所において、塩田昌弘所長から足立守弘蒲郡市副市長へ「みなとの賑わい担い手育成支援事業」の選定通知書の授与が行われました。

当事業は、みなとの景観・自然、歴史・文化遺産、食、レクリエーションなどの資源を活用した住民参加型のみなとづくりによって、賑わい拠点を形成し、地域の活性化を図るためには港湾が所在する市町村等の地元行政や市民・NPO等の地域の担い手の育成や協働を支援する事業です。蒲郡市では、大型集客施設等へ船舶を運行する社会実験を行い、新しい舟運ネットワークの構築によるみなとの賑わい創出担い手育成に取り組めます。



右手：足立守弘 蒲郡市副市長
左手：塩田昌弘 三河港湾事務所長

○ 豊橋みなとフェスティバル

7月16日（海の日）、第9回港楽園「豊橋みなとフェスティバル2007」が豊橋市神野ふ頭町のポートインフォメーションセンター「カモメリア」とその周辺で行われ、台風一過の青空のもと大勢の人でにぎわいました。

オープニングで、佐藤元彦実行委員長より「このイベントを通じて、貿易には欠かせない港を身近に感じ、日本一の自動車港湾が果たす役割と活力を感じてもらいたい。」と挨拶がなされ、続いて、ミスみなとの3女王（港・船・海の女王）の紹介後、開会が宣言されました。

当事務所は、「環境」をテーマにしたコーナーを開設し、当事務所が取り組んでいる環境改善事業を説明するパネル展示を行うとともに、三河湾に生息する生物をモチーフとした輪投げや、アサリによる海水浄化実験の実施を行い、多くの方に楽しみながら三河湾の環境について学んでいただくことができました。

また、会場では、海上保安庁の巡視船「すずか」の一般公開、遊覧船による港内クルーズ、ステージでのショータイムなども行われ、親子連れの歓声が聞かれました。



オープニング

ミスみなと



アサリの浄化実験

輪投げ

○ 衣浦みなとまつり花火大会



7月16日に半田市制70周年・衣浦重要港湾指定50周年記念事業の一環として、衣浦みなとまつり花火大会が、衣浦港中央ふ頭で開催されました。15日に開催予定でしたが、台風4号接近の影響で、16日に延期しての開催となりました。

榊原伊三半田市長の挨拶の後、スターメインが打ち上げられ、花火大会の幕開けとなりました。その後も多彩な花火が打ち上げられ、大ききや音に圧倒され会場から「オーッ」という歓声と盛大な拍手がわきおこりました。最後は、特大スターメインで締めくくられ、会場が光の帯で包まれての閉幕となりました。約2,400発の花火が衣浦港の夏の夜に舞い上がり、来場者を魅了しました。

○ アクアフェスタ2007開催

7月29日、豊橋上下水道局においてアクアフェスタ2007が開催されました。アクアフェスタは「水」にふれることでさらに親しみをもってもらうことを目的としたイベントで、大勢の家族連れらで賑わいました。開会式では、野崎智文豊橋市副市長より「普段飲んでいる水道水が安全に飲めるようにしてくださる方々に感謝」、「アクアフェスタで水の大切さ・水質浄化・三河湾浄化を考えましょう」との挨拶がありました。



野崎智文 豊橋市副市長

イベントの1番人気は「にじますつかみ取り」で、子供たちがビニール製プールの中を泳ぎ回るニジマスの捕獲に挑戦しました。そのほかにも、豊川河畔約4キロを散策する「リバーウォーク豊川」や「クイズラリー」、「きき水コーナー」などが行われ、訪れた人たちは水の大切さを再確認していました。



アサリの浄化能力の実演

当事務所の「三河湾浄化コーナー」では、中山水道航路整備に伴う発生砂を有効活用した「シーブルー事業」、海底の窪地を埋めることにより「青潮の発生を抑える取り組み」、「新たな材料を使用する環境改善の取り組み」のパネル展示を行いました。また、アサリによる海水浄化の実演を行い、アサリの優れた浄化能力を紹介しました。

○ スナメリ観察会

7月29日、蒲郡まつりの一環で海域環境創出事業（シーブルー事業）の環境への効果を確認することを目的に、スナメリ観察会が実施されました。



当日は大変天気も良く、200名を超える応募の中から選ばれた40名の方が、午前と午後の部にわかれ、バリアフリーポンツーン「マンボウ」から三河湾へ航海へ出ました。若干、風浪のある条件の中、スナメリを確認できた方もおり、参加者には大変好評でした。

当日の夜は、蒲郡まつりの納涼花火大会も開催され、打ち上げられたみごとな三尺玉にみなさん酔いしれておりました。



マンボウから出発



スナメリを観察中



○ 衣浦港事業計画及び関連事業説明会開催

7月30日、半田商工会議所において衣浦港事業計画及び関連事業説明会が開催されました。三河港湾事務所長より当事務所の事業概要の説明をはじめ、愛知県衣浦港務所、知多建設事務所の各担当課長、愛知県知立建設事務所の主幹、企業庁衣浦工事事務所、常滑建設事務所の担当課長から、平成19年度の事業計画や、今後の展開等の説明がなされ、参加者は衣浦港周辺の事業について熱心に聞き入っていました。

